文部科学省研究開発学校（平成28年度～令和元年度）

研究開発課題

持続可能な社会の担い手となるために、
その基盤となる態度や資質・能力を明らかにし、
「自然とのつながり」と「人とのつながり」の直接体験を通して
それらを育成する幼児期の教育課程の研究開発

広島大学附属幼稚園

広島大学

１．本園の紹介

２．研究開発課題設定の理由

３．研究の取組

４．幼児・児童（本園卒園児）への効果

５．保育者及び保護者への効果

６．実施上の問題点と今後の課題

1. 本園の紹介

広島県東広島市の中央に位置する本園は、園舎の裏に陣が平山（通称：たんけんの森）があります。そこで子どもたちは・・・

２．研究開発課題設定の理由

グローバル社会を生きていくための資質や能力を身につけ、持続可能な社会の担い手を育むために・・・

「持続可能な開発のための教育」

それらは主に小学校以上の教育において行われ、
幼児期においては報告がされていない
要因として・・・

①幼児教育関係者の間で持続可能な開発のための教育に対する理解が進んでいない

②幼児期以降に行う難しい内容であるという認識がある

幼児期は・・・

自然などの周りの環境に自らかかわる直接体験を大事にしている時期

持続可能な社会づくりに向けた

態度の基盤となるものを育む非常に重要な時期

「進んで参加する態度」
「コミュニケーションを行う力」
「他者と協力する態度」など

幼児期に
その基礎が
培われる

従来の保育の中に「持続可能な開発のための教育」の内容が含まれているにもかかわらず、理解が進んでいないためにその関連性に気づいていないのではないか

幼児期における「持続可能な開発のための教育」の
意義や内容を明示することが必要

子どもたちが将来、持続可能な社会の担い手となって欲しい

幼児期における
「持続可能な社会の担い手となるための教育課程」の
開発に着手！

それをすることで・・・
幼児期から「持続可能な開発のための教育」を行うことが
可能となる！

３．研究の取組

持続可能な社会の担い手となるための教育課程の作成に向け

①「持続可能な社会の担い手の基盤となる
能力・態度」の検討

②「持続可能な社会づくりの
構成概念（幼児版）」の作成

③めざす子ども像の設定

「学校における持続可能な発展のための教育（ESD）
に関する研究」［最終報告書］を参考
（国立教育政策研究所、2012）

①「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」の検討

【ESDの視点に立った学習指導の目標】
教科等の学習活動を進める中で，
「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし，
それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」ことを通して、
持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や
価値観を養う。

【ESDの視点に立った学習指導で重視する
能力・態度】(例)

❶ 批判的に考える力
❷ 未来像を予測して計画を立てる力
❸ 多面的，総合的に考える力
❹ コミュニケーションを行う力
❺ 他者と協力する態度
❻ つながりを尊重する態度
❼ 進んで参加する態度 など

「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」

側面	持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度（略称）	
自己の側面	○安心・安定（**安心**） ○自立（**自立**） ○つながろうとする態度＜主体性･好奇心･粘り強さ･チャレンジ精神・参加・責任＞（**主体性**） ○自信＜自己肯定感・達成感・充実感＞（**自信**）	○共生（**共生**）
他者の側面	○信頼感・親しみ（**親しみ**） ○コミュニケーション＜自己表現・伝え合い・傾聴・いざこざ・葛藤・気持ちの調整＞（**コミュ**） ○協力・協働・協同（**協同**）	
環境の側面	○感触・感覚・感動（**感性**） ○興味・関心・気づき・試行・見立て（**興味**） ○探究・創造（**創造**）	

日本ユネスコ国内委員会

○他人との関係性

○社会との関係性

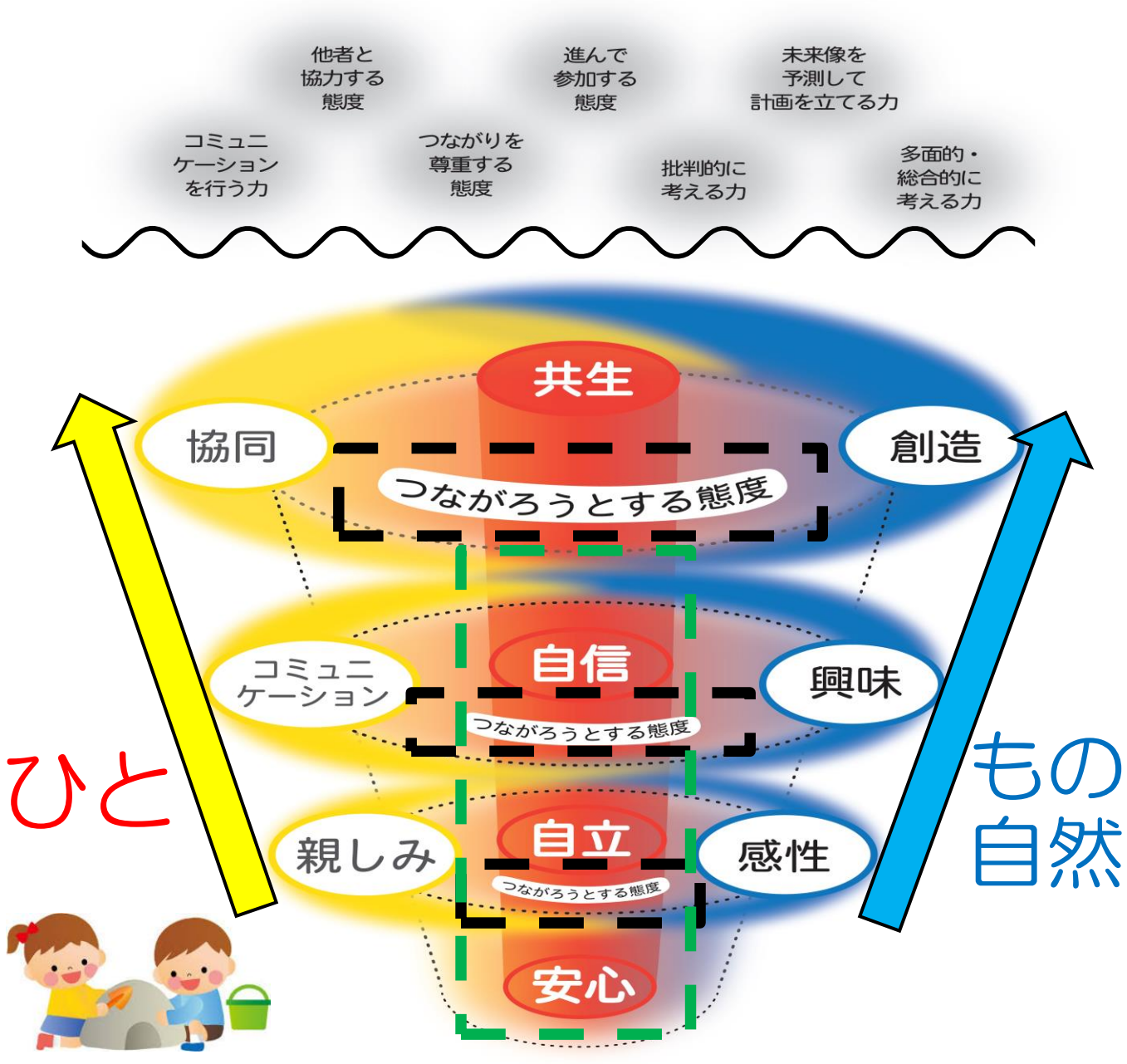
○自然環境との関係性を認識

「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む

他者にも環境にも自らかかわり、つながっていこうとすることが、
育みたい能力・態度の中心

ESDで重視する能力・態度
（小学校以降の教育）

持続可能な社会の担い手の
基盤となる能力・態度



自分の身の周りに目を向けることができるようになり・・・

共 生

みんなと一緒にできることを見つけて行動したり、自分たちの生活をよくしていけるよう考えたりし・・・

つながろうとする態度

②「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）」の作成

【ESDの視点に立った学習指導の目標】
教科等の学習活動を進める中で，
「持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし，
それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける」ことを通して、
持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や
価値観を養う。

【持続可能な社会づくりの構成概念】
(例)
Ⅰ 多様性
Ⅱ 相互性
Ⅲ 有限性
Ⅳ 公平性
Ⅴ 連携性
Ⅵ 責任性 など

ESDの視点（構成概念）を意識することで、今までの保育を見直す

子どもたちの遊び・生活を充実させながら、将来の社会の担い手になるという方向性をもつことで、保育実践を深化させていきたい

「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）」を作成

体と心で体験できるようにしたい

「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）」

自然とのかかわりに関する概念

Ⅰ．多様性（いろいろある）

Ⅱ．相互性・循環性（つながっている）

Ⅲ．有限性（なくなる）

人とのかかわりに関する概念

Ⅳ．公平性（みんな大切）

Ⅴ．連携性（力を合わせて）

Ⅵ．責任性（自分のこととして）

「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）」

本園独自に設定　　前提となる概念

０．受容性（受け止めている）

定義

私たちの取り巻く世界は、私の存在を根底から支え、受け止めていること

例）

身の回りの自然に対して、美しさや面白さ、美味しさ、不思議さ、愛情などを感じて好きになること

自分はみんなに大事にされ、愛されていると感じること

「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」を身につけためざす子ども像を設定・・・

めざす子ども像

（自己）自らしようとする遊びや生活に向かって，生き生きと取り組む子ども

（他者）友達と心を通わせ，協力して遊びや生活を創り出す子ども

（環境）身近な環境に心を動かし，かかわりを深めようとする子ども

その子ども像に向かうための教育課程を4年かけて作成

広島大学附属幼稚園 教育課程（５歳児）

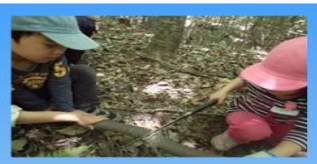
子どもの姿・内容にある（　）は「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」を示す

期	Ⅰ期　［４月～７月］ 友達とのつながりを感じながら,自分の力を試していく時期	Ⅱ期　［８月～12月］ 友達と思いを出し合いながら,一緒に遊びや生活を進めていく時期	Ⅲ期　［１月～３月］ 一人一人がその子らしさを発揮しながら,園での生活を満喫する時期
子どもの姿	 <自己>・新しい環境に積極的にかかわったり，新たな遊びに挑戦したりする子どもと，初めてする遊びに躊躇する子どもがいる。（自信・主体性） ・片付けパトロールや飼育当番などに積極的に取り組む子どもと，周りに意識が向きにくい子どもがいる。（共生） <他者>・以前からの気の合う友達とは仲間意識を強めていくが，それ以外の友達とはかかわることが少ない。（コミュ） ・ものを運ぶなどの協力は行うことが多いが，お互いに思いや考えを伝えながら遊ぶことはまだ難しい。（協同） <環境>・生き物の細かな部分まで観察したり，触ってみたりしながら身近な自然物に対する関心を高めていく子どもがいる。（興味・感性） ・身近にある自然物や道具を使い，自分なりに工夫したり遊びに取り入れたりしようとする。（興味・創造）	 <自己>・やりたいことに取り組む中で自分の力を発揮したり，新たなめあてを自分で見つけて自信をもって取り組もうとしたりする。（自信・主体性） ・自分たちで遊びに必要なものを準備したり，行事の際にすべきことをしたりしている子どもと,自分から取り組みにくい子どもがいる。（共生） <他者>・自分の思いを伝えようとする子どもも増え,意見のぶつかり合いが見られるが，次第に相手の思いや考えを聞くようになる。（コミュ） ・友達と力を合わせて遊ぶことが楽しくなる一方で，自分だけの考えでルールを変えてしまい，遊びが進まなくなることがある。（協同） <環境の側面>・友達と森にある自然物や自然空間を何かに見立てたり,遊びに利用したりすることが増えてくる。（創造） ・木の実の実りに気がついたり，紅葉などの季節の移り変わりを実感したりしながら,その季節の自然物を遊びに取り入れようとする。（興味・感性）	 <自己>・自分らしさを発揮する子どもが増え，得意なことを披露したり，困難なことにもあきらめずに取り組む子どもが増える。（自信・主体性） ・クラスの仲間との一体感やつながりを感じる子ども，クラスの出来事を自分のこととして捉え，親身になってかかわる子どもが増える。（共生） <他者>・いろいろな友達に自分の考えを分かりやすく伝えたり,自分たちで折り合いをつけたりして遊びや生活を進めるようになる。（コミュ） ・遊びや行事の中で友達のその子らしさを生かしたり，いろいろな友達と励まし合いながら力を合わせて生活を送ったりするようになる。（協同） <環境の側面>・遊びや行事の中で，自分たちでアイデアを出し合ったり，やり方を工夫したりしてよいものを創ろうとすることが増える。（創造） ・これまでの経験から，身近にある素材の特性を生かそうと試したり，新たな工夫を加えたりしながら遊ぶことが多くなる。（創造）
●ねらい　・内容	●自分の力を試しながら，進んで遊びや生活に取り組む ●一緒に遊んだり活動したりする中で，友達と思いを伝え合おうとする ●身近な環境とのかかわり広げながら，試したり工夫したりして遊ぶ ・新しい遊びに挑戦しながら，意欲的に自分の力を試してみようとする。（自信・主体性） ・片付けパトロールや飼育当番など，園生活で必要なことを進んでやろうとする。（共生） ・いろいろな友達と互いの思いや考えを言葉で伝え合う。（コミュ） ・友達と力を合わせたり，話し合ったりしながら遊ぶ。（協同） ・自然物に対して食べたり匂いを嗅いだりするなど，諸感覚を働かせてかかわる。（感性） ・動植物をじっくり観察したりかかわったりすることで，そのものの特性に気付いたり，関心を高めたりする。（興味） ・身近な自然物や道具を使って，作ったり組み合わせたりするなど自分なりに工夫して遊ぶ。（創造） ・山際で，自分たちの遊び場所を作ろうとする。（創造）	●自分のしたいことや，すべきことを見つけて取り組み，達成感を味わう ●友達と共通のめあてに向かって協力する喜びを感じる ●自分たちで考えたり工夫したりしながら，遊びを充実させていく ・自分のしたいことやめあてに向かって積極的に取り組もうとし，めあてが実現した達成感や充実感を味わう。（自信・主体性） ・遊びや活動の中で自分のすべきことや,自分の役割を見つけようとする。（共生） ・友達に自分の思いを伝えたり,友達の思いや考えを聞こうとしたりする。（コミュ） ・遊びのアイデアを友達と出し合い，出たことを取り入れながら力を合わせて遊びを進める。（協同） ・自然物や自然空間を様々に見立てて使ったり，それらを利用したりする。（創造） ・その季節の恵みを頂いたり，季節の移り変わりやそれと同時に夏や秋の虫たちも死んだりいなくなることを感じたりしながら遊ぶ。（感性）	●自分らしさを発揮し根気強く取り組みながら，自信をもって生活する ●互いのその子らしさを感じながら，友達と協力して遊びや生活を進めようとする ●遊びや生活をよりよくするために，考えを巡らせたり，考え直したりしようとする ・自分なりのめあてに向かって根気強く取り組み，達成感を味わう。（自信） ・自分らしさや得意なことを発揮し，クラスの中での存在感を味わう。（主体性） ・活動や行事などを自分のこととして考え，積極的に取り組む。（共生） ・自分の考えたことを伝えたり，友達の考えを受け止めたりしようとする。（コミュ） ・園生活の中でその子らしさを感じ，その子どもの得意なことを生かしながら力を合わせて取り組む。（協同） ・遊びや行事をよりよくするために，みんなで話し合いながら自分たちで考えようとする。（創造） ・これまでの経験から，身近な素材の特性を生かしたり，新たに工夫したりしながら遊ぶ。（創造）
ESDの構成概念を含む体験	受容性：青空の大きさや森のまばゆいばかりの緑を感じる。 多様性：いろいろな草花や生き物の存在に気付いたり，草花や生き物の感触を楽しんだりする。 循環性：育てている夏野菜の生長を感じたり，収穫して食べたりする。 有限性：飼育箱に入れて放置した生き物が死んでいることに直面する。 公平性：一緒に遊ぶ友達の思いや考えに耳を傾けながら遊ぶ。 連携性：みんなでグループ対抗ゲームなどをする。 責任性：当番活動や片付けなど，自分ができることをしようとしたり最後までしたりする。困っている友達の話を聞き，自分のこととして考えたりアドバイスしたりする。	受容性：紅葉の美しさや秋の実りをいただきながら幸福感を得る。 多様性：森や園外保育に出かけ，いろいろな実，昆虫などを見つける。 循環性：自然界の食べたり，食べられたりする関係を見る。炭など使い終わったもので遊ぶ。育てた野菜がまた生えてくることに気付く。 有限性：みんなで名前をつけ，大切に育てていた飼育動物の死を知り，戻ってこないことを実感する。 公平性：収穫したものや遊びに使う実をみんなで分け合いながら使う。 連携性：グループの友達と共通のめあてをもって話し合い，製作遊びをしたり，新たな森の遊具を作ったりしていく。 責任性：みんなで生活を進めていく中で出てきた課題を自分たちのこととして考え，話し合って決めていく。	受容性：冬の自然現象の不思議さや春の気温の暖かさを感じる。 多様性：冬芽など，冬から春のいろいろな自然物を見たり触ったりする。 循環性：木枝を集め焚き火の燃料にしたり，冬野菜を収穫した時の様子やその後の様子を見たりする。 有限性：マッチ棒や薪など，限りのあるものを大事に使おうとする。 公平性：劇遊びなどいろいろな活動に取り組む中で，メンバー一人ひとりの思いや考えを聞き，受け入れながら進めていく。 連携性：友達と助け合い，励まし合いながら山越えをする。集団遊びで，作戦を考えたり仲間を助けたりし協力して取り組む。 責任性：参観日などの行事や活動の内容，進め方をみんなで考え，話し合うとともに，自分たちで進めていく。

広島大学附属幼稚園 教育課程（５歳児）　　子どもの姿・内容にある（　）

期

Ⅰ期　［４月～７月］
友達とのつながりを感じながら,自分の力を試していく時期



子どもの姿

<自己>・新しい環境に積極的にかかわったり，新たな遊びに挑戦したりする子どもと，初めてする遊びに躊躇する子どもがいる。（自信・主体性）
・片付けパトロールや飼育当番などに積極的に取り組む子どもと，周りに意識が向きにくい子どもがいる。（共生）
<他者>・以前からの気の合う友達とは仲間意識を強めていくが，それ以外の友達とはかかわることが少ない。（コミュ）
・ものを運ぶなどの協力は行うことが多いが，お互いに思いや考えを伝えながら遊ぶことはまだ難しい。（協同）
<環境>・生き物の細かな部分まで観察したり，触ってみたりしながら身近な自然物に対する関心を高めていく子どもがいる。（興味・感性）
・身近にある自然物や道具を使い，自分なりに工夫したり遊びに取り入れたりしようとする。（興味・創造）

●自分の力を試しながら，進んで遊びや生活に取り組む
●一緒に遊んだり活動したりする中で，友達と思いを伝え合おうとする
●身近な環境とのかかわり広げながら，試したり工夫したりして遊ぶ

●ねらい　・内容

・新しい遊びに挑戦しながら，意欲的に自分の力を試してみようとする。（自信・主体性）
・片付けパトロールや飼育当番など，園生活で必要なことを進んでやろうとする。（共生）
・いろいろな友達と互いの思いや考えを言葉で伝え合う。（コミュ）
・友達と力を合わせたり，話し合ったりしながら遊ぶ。（協同）
・自然物に対して食べたり匂いを嗅いだりするなど，諸感覚を働かせてかかわる。（感性）
・動植物をじっくり観察したりかかわったりすることで，そのものの特性に気付いたり，関心を高めたりする。（興味）
・身近な自然物や道具を使って，作ったり組み合わせたりするなどして自分なりに工夫して遊ぶ。（創造）
・山際で，自分たちの遊び場所を作ろうとする。（創造）

ESDの構成概念を含む体験

受容性：青空の大きさや森のまばゆいばかりの緑を感じる。
多様性：いろいろな草花や生き物の存在に気付いたり，草花や生き物の感触を楽しんだりする。
循環性：育てている夏野菜の生長を感じたり，収穫して食べたりする。
有限性：飼育箱に入れて放置した生き物が死んでいることに直面する。
公平性：一緒に遊ぶ友達の思いや考えに耳を傾けながら遊ぶ。
連携性：みんなでグループ対抗ゲームなどをする。
責任性：当番活動や片付けなど，自分ができることをしようとしたり最後までしたりする。困っている友達の話を聞き，自分のこととして考えたりアドバイスしたりする。

「自己」「他者」「環境」の各側面ごとに設定したねらい

（　　）は「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」

「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）を含む体験」

学年によっては、期をまたいで同じ体験が続くように

４．幼児・児童（本園卒園児）への効果

評価方法

①「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）を含む体験」に関する実践事例の検討

②対象児のエピソード及び定期的な観察による「能力・態度」に関する育ちの把握

③「人」「もの」「こと」の３つのつながろうとする態度からなるルーブリックによる幼児一人一人の育ち及び全体の育ちの把握

④卒園児に対する「能力・態度」についての小学校教諭へのインタビュー

①「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）を含む体験」に関して

目の前の急斜面に向かって、
一生懸命に真剣な表情で、全身で
登っていく姿

滑り落ちても，友達同士で声を掛
け合って再び登っていく姿

急斜面という自然の存在の大きさを
感じ、自分なりにかかわっている

登り切った後は、どの子どもも
嬉しそうに滑っていく姿

急斜面にかかわる楽しさを感じている

体中で自然を感じ、自然に包まれて過ごし遊ぶことを喜んでいる

②対象児のエピソード及び定期的な観察による「能力・態度」の育ちに関して

レン（仮名）

平成29年度年少組・３歳児クラスから在籍
現在、５歳児

レンの変容

環境の側面（感性・興味・創造）

レン

３歳児の頃は、緊張した様子を見せ、黙って遊んでいることが多かった。

保育者に対する安心感をもつようになったことで「もの」へのかかわりを徐々に広げていった

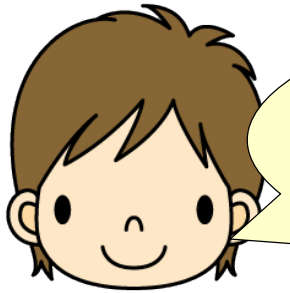
４歳の頃は、自分に対する自信が薄く、すぐに保育者に頼る姿も見られた

５歳の４月にも同様の姿があったが・・・
６月頃には森で体験したことを生かしながら、工夫して遊ぶ姿が見られるようになった

草をたくさん取って来てフライパンに載せ、水を入れた後、陽が当たっている秘密基地に移動し・・・

今、野菜を蒸してるんよ

保育者：「どうやって？」



ずっと前、太陽の光が当たって
煙（湯気）が出とったでしょ。
あんなのみたいするんよ

秘密基地の床（板）に太陽の光が当たり，そこに偶然水がかかったことで出た蒸気を見た体験を思い出し、野菜の蒸し料理を作る

森の中で起こる**不思議！おもしろい！という体験は、レンなりに工夫して遊ぶことにもつながっている**

③幼児一人一人の育ち及び全体の育ち関して

例：「こと」とつながろうとする態度のルーブリック

③「こと」とつながろうとする態度		
段階	評定基準	具体的な姿
第１段階	・自分の関心のあることはするもしくは ・関心のあることを見つけられず，保育者に言われたことをする	・自分のしたいことや関心があることはするが，保育者に促されても関心のないことはしない。 もしくは ・片付けや集いの内容など保育者に促されたことはするが，自分のやりたいことが見つけられず，周りの物事にかかわっていく様子があまり見られない。
第２段階	・関心のあることをすると同時に，保育者に促しによってみんなのためになることや，みんなでやる活動をしようとする	・自分のしたいことや関心のあることをする。 ・保育者の誘いや促しによって，みんなでやる活動に参加する。 ・保育者に言われれば，気が進まなくてもみんなのためにできることをしよう，認めてもらうためにみんなのためにできることをしようとする。
第３段階	・自分たちの生活や活動に関心を示し，みんなのためになることを自分からやろうとする。	・保育者に言われなくても，例え認めてもらえなくても，自分たちの生活や活動に意識を向け，みんなのためになることを自分からする。 ・集いや様々なクラスの活動などに自分から参加するが，全ての活動に主体的に取り組むわけではない。
第４段階	自分たちの生活や活動に意識を向け，自分のこととしてかかわったり，みんなのためになることを自分から見つけて行動したりしようとする。	・みんなのためにやった方がいいと思うことや必要だと思うことを自分から見つけてする。 ・自分たちの生活や活動に意識を向け，興味の有無にかかわらず話し合いに参加したり考えを出し合ってよりよくしたり，みんなで物事を決めていったりなど，自分のこととして考えたりかかわったりする。 ・自分たちで考えて決めたことは，行動にうつしたり守ったりしようとする。

③幼児一人一人の育ち及び全体の育ち関して

	3歳		4歳		5歳	
	5月	10月	5月	10月	5月	10月
①ひととつながろうとする態度	1.2	1.9	1.9	2.2	2.1	2.8
②ものとつながろうとする態度	1.6	2.1	2.3	2.5	2.6	3
③こととつながろうとする態度	1	1.7	1.9	2.4	2.2	2.3

自分の安心を得ようと必死だった５月と比較し・・・
10月は、安心できる保育者を媒介にしながら・・・

保育者

友達と一緒に過ごす楽しさを感じ始める姿へ
変化していったからではないか

要因（保育者の援助）
安心や遊ぶ楽しさが感じられるように
クラスの友達と過ごす心地よさを感じられるように

④卒園児の「能力・態度」の育ちに関して

本園卒園児（小学１年生）が在籍する３校の小学校の担任教諭に対し

本園卒園児（男児５名，女児２名の計７名）の
「持続可能な社会の担い手の基盤となる能力・態度」について
インタビューを行う

全ての卒園児において

・周囲の環境に対する好奇心や興味が強い」
・「じっくり丁寧に物事に取り組む姿勢がある」
・「“～したい”という意欲がある」

「ものとつながろうとする態度」が育っている

「ひととつながろうとする態度」について概ね・・・

- 「気の合う友達とやりとりを楽しんでいる」
- 「困っている友達に気付いて自分から声を掛ける」　など

能力・態度をベースに、個々の力を発揮！
幼稚園からの成長がつながっている！

５．保育者及び保護者への効果

保育者の持続可能な開発のための教育への理解によって・・・
保育に対する考え方や姿勢・・・
子どもとのかかわり方などにどのような変化があったのかを捉える

持続可能な開発のための教育について理解していく中で，これまでよりもさらに、子どもたちと一緒に考えたり，悩んだりしながら一緒に保育を創っていく楽しさや面白さを味わえるようになった。

子どもたちが自分たちで意見を出し合い、多様な感情に揺さぶられながら皆で考え続けていけるような体験や姿勢を大切にしていきたい。

子どもたちと山際や森にいると，さまざまなことに出逢う。それらに出逢って子どもたちが見せる何気ない反応に対して，“自然の中にいる心地よさを感じているんだな”“「いろいろある」ことを体験しているんだな”と価値を見出せるようになった。

子どもたちが自然とのかかわりの中で、いろいろ感じ取っている姿を見守ったり，時間を保障したり，より自然を感じるためにどの場所がいいか考えて援助したりするなど，かかわり方が少し変化したように思う。

詳細は、報告書（要約）内の「保育者への効果」をご参照ください

特別な保育をしたわけではない。

日常の保育の中に持続可能な開発のための教育の内容を見いだし・・・

持続可能な社会の担い手の基盤となる能力･態度が育まれるようにかかわった

実践を振り返り、カンファレンスを通して多様な考えに触れることで、持続可能な開発のための教育の理解を深めてきた

保育に対する姿勢や子どもに対するかかわり方に変容をもたらせた！

保護者の持続可能な開発のための教育への理解

- 「持続可能な開発のための教育の理解にむけた講演会（６月）」
- 「降園時の際の保育者からの話（適宜）」
- 「園だより（毎月）」
- 「保健だより（毎月）」
- 「親子で森で遊ぶ日（６月・10月）」

11月に保護者アンケートを実施
持続可能な開発のための教育への理解にかかわる変容のきっかけを明らかにしました。

保護者の持続可能な開発のための教育への理解

その結果、回答者のうち、62％の保護者が自らの価値観・意識・行動に変化があった

変化のきっかけとしては・・・
子どもの姿によるものが最も多く見られた。

持続可能な開発のための教育を幼児期から取り入れることにより、
子どもが変容することで、
保護者の持続可能な開発のための教育への理解の変容にもつながっている

６ 実施上の問題点と今後の課題

実施上の問題点

①ルーブリックの使用方法

幼児期の子どもの意欲や態度面を含めて、適切に子どもたちの成長を評定しきれない。「評定基準」等のとらえ方によっては評定の値に差が出やすい

②本教育課程で網羅しきれない保育内容

作成した教育課程に沿って保育を進めていくことで、意識から抜け落ちやすい保育内容があることが分かってきた

自然とのかかわりを通じて、空想の世界を楽しむなども大切にしてきたが、「持続可能な開発のための教育」の尺度に当てはめにくく、教育課程に組み込むことが困難であった

今後の課題

①「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）の構成概念を含む体験」の更なる充実

引き続き、日々の保育と持続可能な開発のための教育とのつながりを見出していき、「持続可能な社会づくりの構成概念（幼児版）の構成概念を含む体験」の更なる充実を図る

②追跡調査のあり方の検討

「小学校教師へのインタビュー」は追跡調査の手段の一つとなった。しかし、それ以外に、より適切な方法があるのかを検討する余地がある

③幼児教育関係者に対する本研究の成果のわかりやすい発信の模索

「持続可能な開発のための教育」を知らない幼児教育関係者にも、その良さが伝わっていくように、簡潔に本研究の成果を表しつつ、子どもたちの成長が見られるような写真を多用したリーフレット等を作っていくことが必要

ご静聴、ありがとうございました！

日本ユネスコ国内委員会
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
Japanese National Commission for UNESCO

広島大学